

県民暮らしのアンケート調査

(平成 26 年 8 月実施)

香川県民の暮らし向きや消費の実態・意識を把握するために、「県民暮らしのアンケート調査」を実施した（消費税率の引き上げ等の意識調査も併せて実施）。

調査結果の概要

- (1) 現在の暮らし向きについて、1年前と比べて、9.6%の人が「(やや)良くなった」と回答し、逆に27.2%の人が「(やや)悪くなった」と回答した。
- (2) 今後1年間の暮らし向きについて、7.4%の人が「(やや)良くなる」と予想し、逆に31.5%の人が「(やや)悪くなる」と予想している。
- (3) 今後1年間の収入について、9.3%の人が「(やや)増える」と予想し、逆に33.3%の人が「(やや)減る」と予想している。
- (4) 今年の夏のボーナスの使い道について、33.5%の人が「預貯金」の金額を増やすと回答した。
- (5) 今年4月の消費税率引き上げ前に駆け込み消費した人の割合は51.7%で、購入した割合が最も高かったのは「日用品」で、駆け込み消費した人の59.4%が購入した。
- (6) 今年4月の消費増税に伴う家計の負担について、80.2%の人が「(かなり・ある程度)負担を感じている」と回答し、逆に19.8%の人が「(全く・あまり)負担を感じていない」と回答した。
- (7) 来年10月(予定)の消費税率の再引き上げについて、15.1%が納得、83.2%が不満と回答。納得の理由として68.7%の人が「国の財政赤字を改善させるためには、やむを得ないから」と回答。逆に不満の理由として54.8%の人が「消費税率引き上げ分の負担をカバーできるほど、家計の収入が増えると思わないから」と回答した。
- (8) 1年後の県内景気について、6.6%の人が現在と比べて「(やや)良くなる」と予想し、逆に28.9%の人が「(やや)悪くなる」と予想している。
- (9) 1年後の物価について、65.8%の人が現在と比べて「(やや)上がる」と予想している。
- (10) 1年後の消費行動(お金の使い方)について、56.7%の人が現在と比べて節約をしていると回答した。

アンケート調査要領

1. 調査期間：平成26年8月22日～26日
2. 調査対象：香川県内在住の20歳以上の男女
3. 調査方法：インターネット調査（調査会社の登録モニターによる回答）
4. 有効回答数：658人
5. 回答者の構成と属性

■年代別回答者数

	計		男		女	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20代	102	15.5%	42	6.4%	60	9.1%
30代	133	20.2%	70	10.6%	63	9.6%
40代	153	23.3%	79	12.0%	74	11.2%
50代	150	22.8%	71	10.8%	79	12.0%
60代以上	120	18.2%	62	9.4%	58	8.8%
合計	658	100.0%	324	49.2%	334	50.8%

■職業

	人数	構成比
会社員	222	33.7%
公務員	49	7.4%
自営業	69	10.5%
その他	318	48.3%
合計	658	100.0%

■未婚の別

	人数	構成比
合計	658	100.0%
うち既婚	440	66.9%

■住宅の種類

	人数	構成比
持家(一戸建て)	450	68.4%
持家(マンション等)	61	9.3%
社宅	16	2.4%
借家	131	19.9%
合計	658	100.0%

■世帯主の職業

	人数	構成比
会社員	306	46.5%
公務員	67	10.2%
自営業	94	14.3%
その他	191	29.0%
合計	658	100.0%

■世帯の年収

	人数	構成比
300万円未満	118	17.9%
300～500万円未満	172	26.1%
500～700万円未満	141	21.4%
700～1000万円未満	91	13.8%
1000万円以上	39	5.9%
答えたくない・わからない	97	14.7%
合計	658	100.0%

■世帯の人員

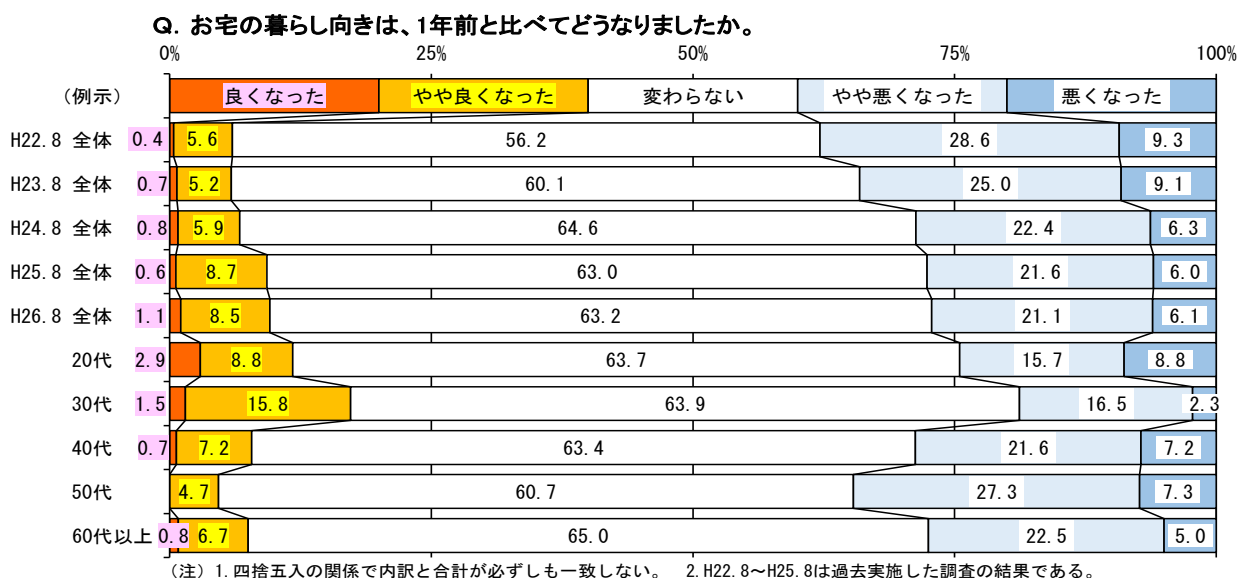
	人数	構成比
1人	81	12.3%
2人	180	27.4%
3人	176	26.7%
4人	140	21.3%
5人	54	8.2%
6人	22	3.3%
7人	5	0.8%
合計	658	100.0%

(注) 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない。

A. 「暮らし向き」について

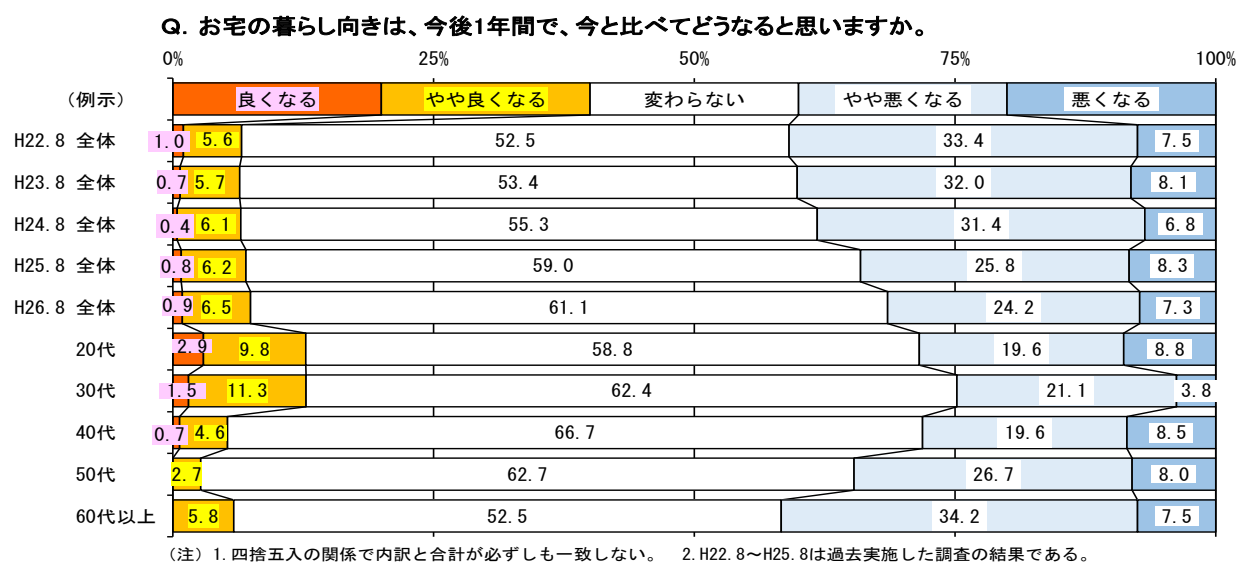
1. 現在の暮らし向き（1年前と比べて） ～ 9.6%の人が「(やや)良くなった」と回答 ～

現在の暮らし向きについて1年前と比べて「良くなった(1.1%)」、「やや良くなった(8.5%)」と回答した人の割合は合計で9.6%であった。一方、「悪くなった(6.1%)」、「やや悪くなった(21.1%)」と回答した人の合計は27.2%であった。



2. 今後1年間の暮らし向き ～ 7.4%の人が「(やや)良くなる」と予想 ～

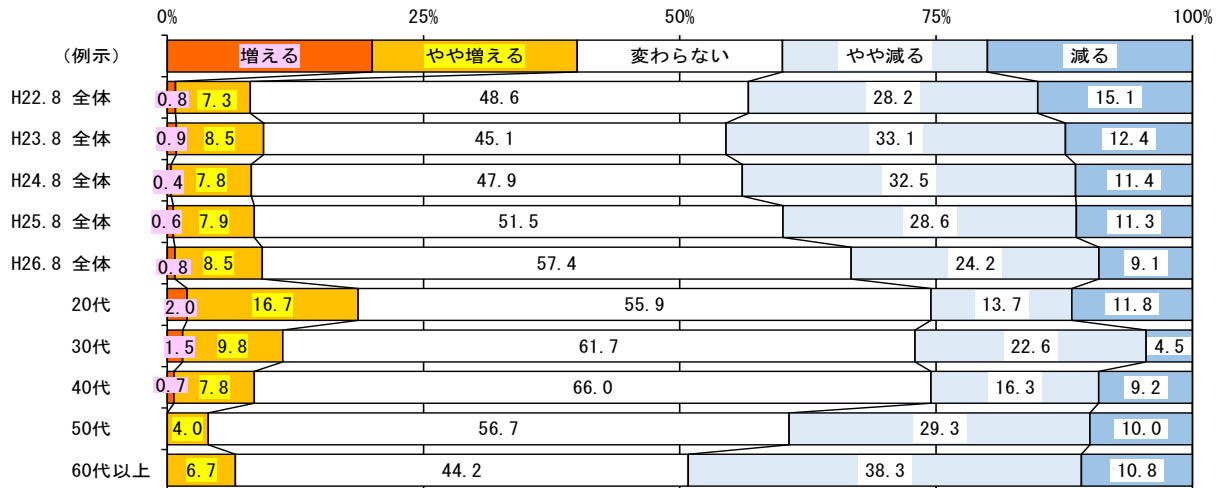
今後1年間の暮らし向きについて「良くなる(0.9%)」、「やや良くなる(6.5%)」と回答した人の割合は、合計で7.4%であった。一方、「悪くなる(7.3%)」、「やや悪くなる(24.2%)」と回答した人の合計は31.5%であった。



3. 今後1年間の収入 ～ 9.3%の人が「(やや)増える」と予想 ～

今後1年間の収入について、「増える(0.8%)」、「やや増える(8.5%)」と予想した人の割合は、合計で9.3%であった。一方、「減る(9.1%)」、「やや減る(24.2%)」と予想した人の合計は33.3%であった。

Q. お宅の収入は、今後1年間で、今と比べてどうなると思いますか。



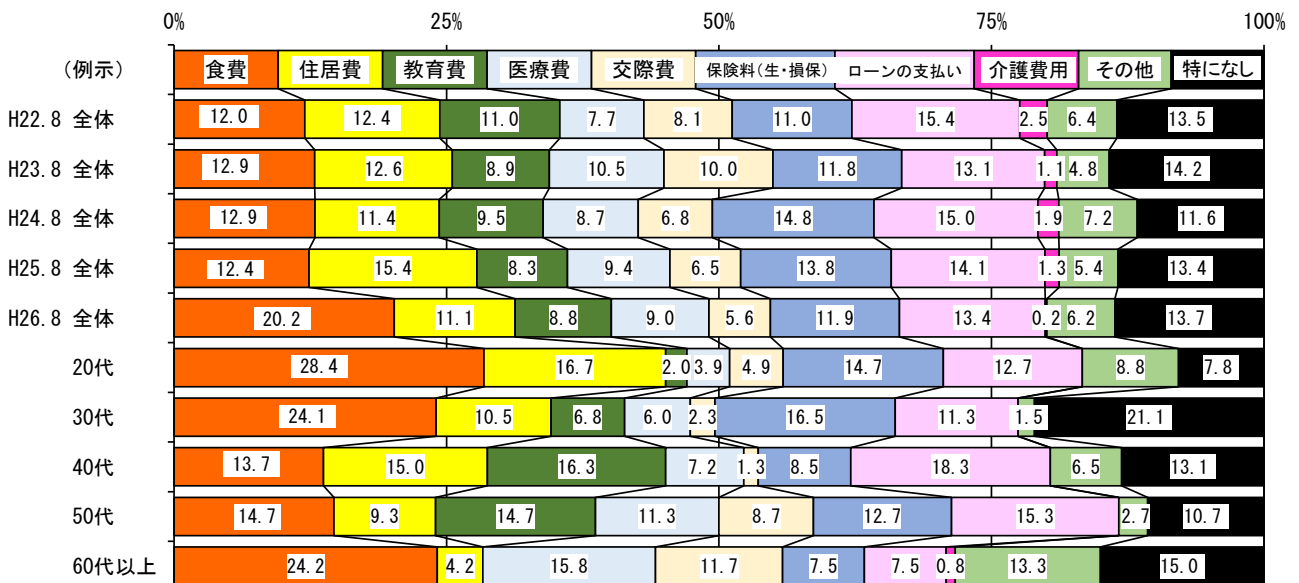
(注) 1. 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない。 2. H22.8～H25.8は過去実施した調査の結果である。

4. 最も負担に感じている支出

現在、「最も負担に感じている支出項目」を尋ねたところ、回答割合が最も高かったのは「食費」で 20.2%、次いで「ローンの支払い」の 13.4%、「保険料（生・損保）」の 11.9%、「住居費」の 11.1%であった。年代別に上位3位までを列挙すると、次のようにライフステージごとの特徴が表れている。

20代	①「食費」(28.4%)	②「住居費」(16.7%)	③「保険料(生・損保)」(14.7%)
30代	①「食費」(24.1%)	②「保険料(生・損保)」(16.5%)	③「ローンの支払い」(11.3%)
40代	①「ローンの支払い」(18.3%)	②「教育費」(16.3%)	③「住居費」(15.0%)
50代	①「ローンの支払い」(15.3%)	②「食費」、「教育費」(14.7%)	
60代以上	①「食費」(24.2%)	②「医療費」(15.8%)	③「その他」(13.3%)

Q. 暮らしの中で、今、最も負担に感じている支出は何ですか。



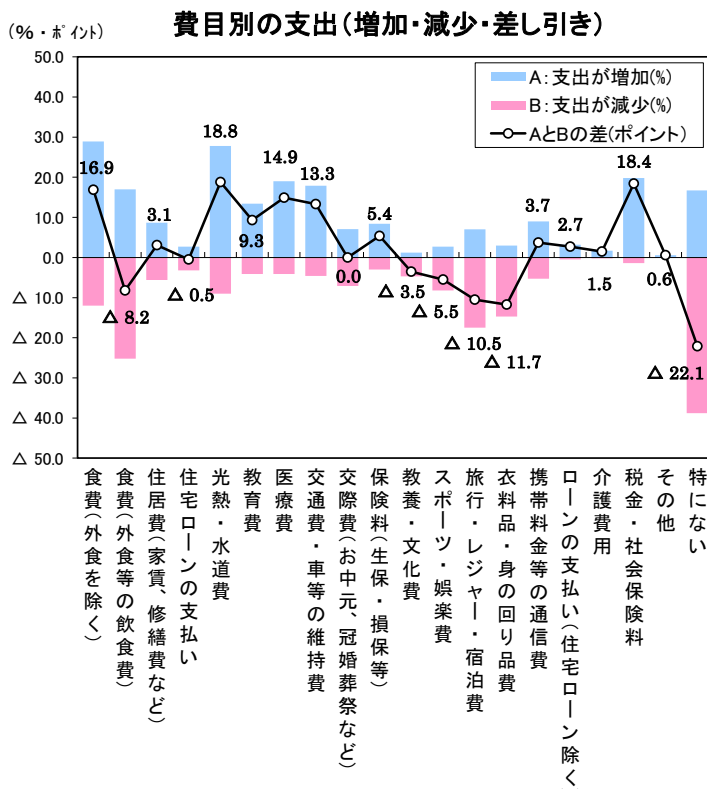
(注) 1. 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない。 2. H22.8～H25.8は過去実施した調査の結果である。

5. 支出が増加した費目・減少した費目

この1年間の支出で「増加した費目」と「減少した費目」について尋ね、各費目を選んだ人の割合を「増加」、「減少」、「増減の差」としてグラフにしたものが右の図である（3つまでの複数回答）。

グラフで費目別に増減の差をみると、支出が増加した費目では「光熱・水道費」が最も高く18.8ポイント、次いで「税金・社会保険料」の18.4ポイント、「食費（外食を除く）」の16.9ポイントとなっている。

一方、支出が減少した費目では「衣料品・身の回り品費」が最もマイナスとなり、マイナス11.7ポイント、次いで「旅行・レジャー・宿泊費」のマイナス10.5ポイント、「食費（外食等の飲食費）」のマイナス8.2ポイントとなっている。

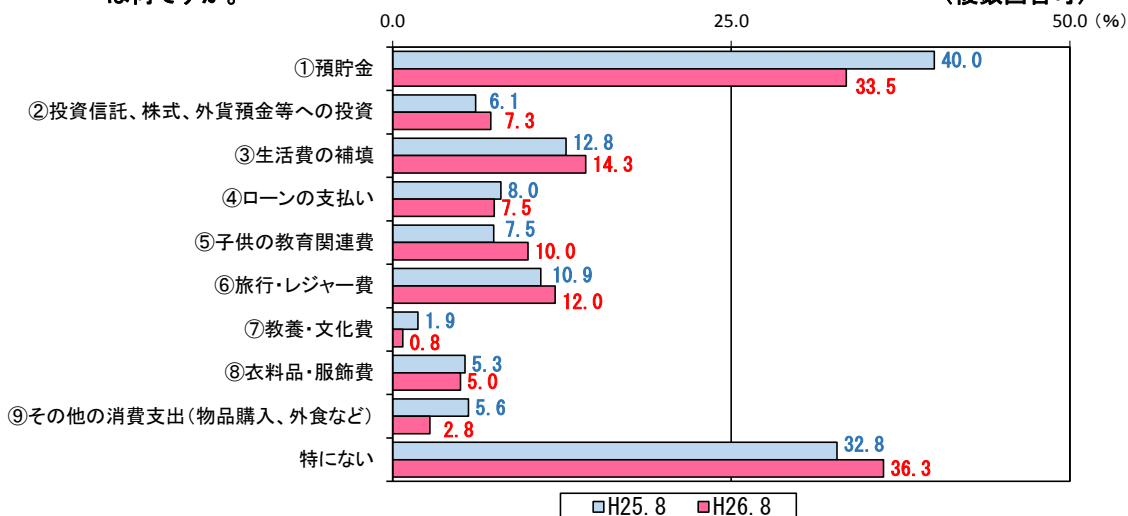


6. 今年の夏のボーナスの使い道 ～ 33.5%の人が預貯金を増やすと回答 ～

今年の夏のボーナスの使い道について、昨年（又は例年）と比べて、金額を増やしたもの（又は増やそうと思うもの）を尋ねたところ、「預貯金」が最も回答割合が高く33.5%であった。預貯金同様に将来の備えとなる「投資信託、株式、外貨預金等への投資」は7.3%であった。

その他、回答割合が高かったものは、「生活費の補填」の14.3%、「旅行・レジャー費」の12.0%、「子供の教育関連費」の10.0%、「ローンの支払い」の7.5%であった。

Q. 今年の夏のボーナスの使い道で、昨年(又は例年)と比べて、金額を増やしたもの(増やそうと思うもの)は何ですか。



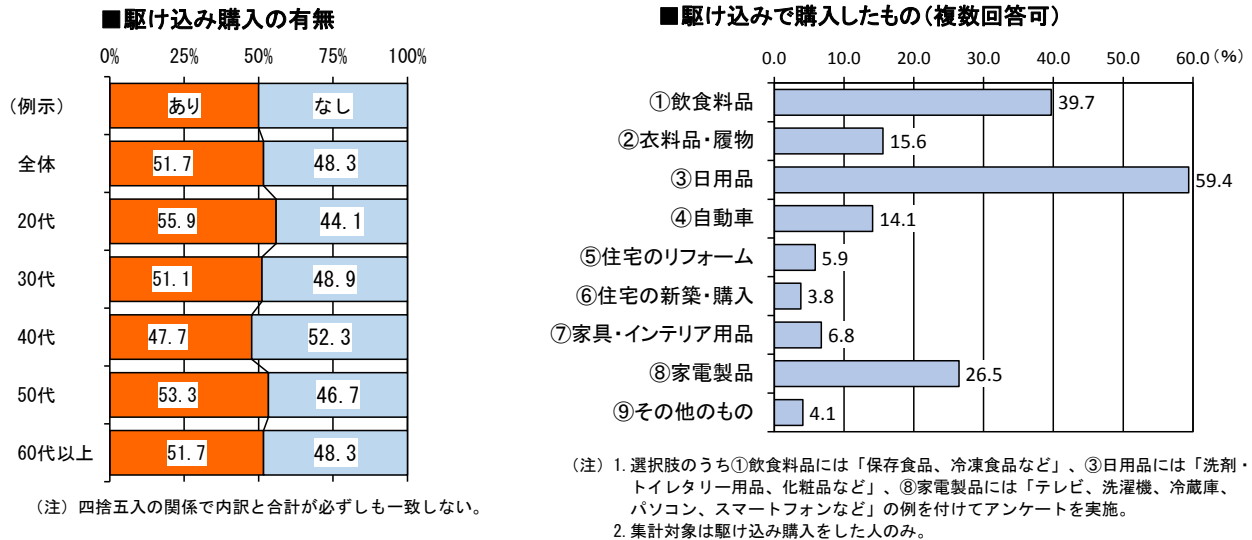
(注) 1. 調査対象はボーナス支給があった家計のみ。 2. H25.8は昨年実施した調査の結果である。

B. 「消費増税」について

1. 平成 26 年 4 月の消費税率の引き上げ前の駆け込み消費について

平成 26 年 4 月の消費税率の 5% から 8% への引き上げ前に、増税を見越して購入したもの（いわゆる消費増税前の駆け込み消費）があるか尋ねたところ、駆け込みで購入したものがある人の割合は全体の 51.7% で、購入したもので最も回答割合が高かったのは「日用品」で、駆け込み消費した人の 59.4% が購入した。

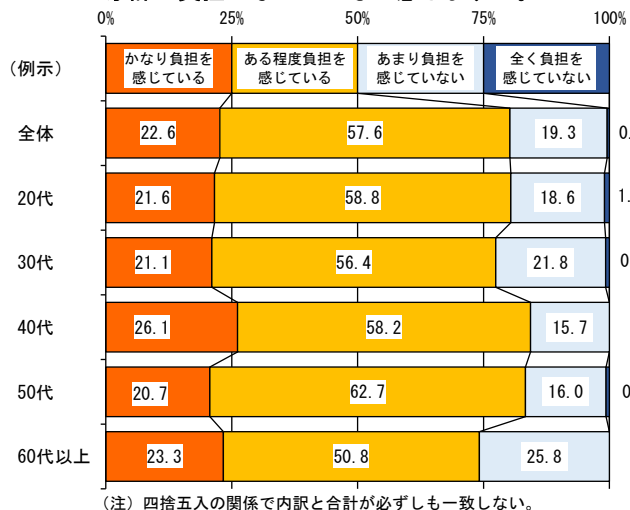
Q. 今年4月の消費税率引き上げ前に、駆け込みで購入したものはありますか。



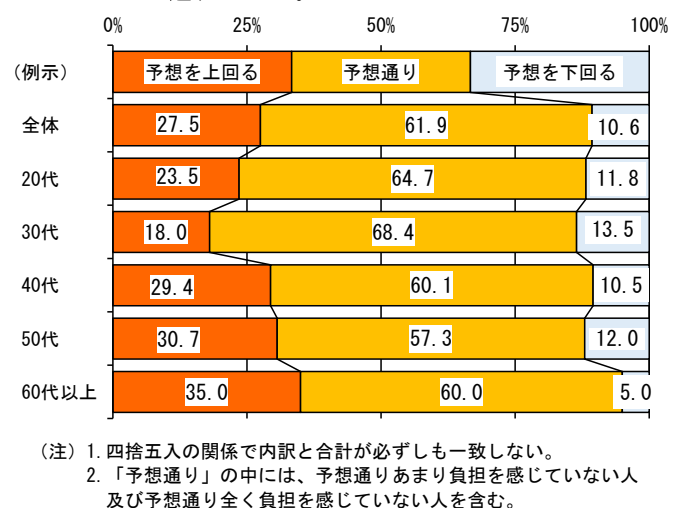
2. 平成 26 年 4 月の消費増税に伴う家計の負担について

平成 26 年 4 月の消費増税の家計への負担について、どの程度感じているか尋ねたところ、「かなり負担を感じている」が 22.6%、「ある程度負担を感じている」が 57.6% に対して、「あまり負担を感じていない」は 19.3%、「全く負担を感じていない」は 0.5% であった。また、その負担感が消費税率引き上げ前に予想していた通りであったか尋ねたところ、予想を上回って負担を感じている人は 27.5%、予想通りが 61.9%、予想を下回っている人が 10.6% であった。

Q. 今年4月からの消費税率の引き上げは、どの程度、家計の負担になっていると感じますか。



Q. 消費税率引き上げによる家計の負担は、引き上げ前に予想していた通りでしたか。

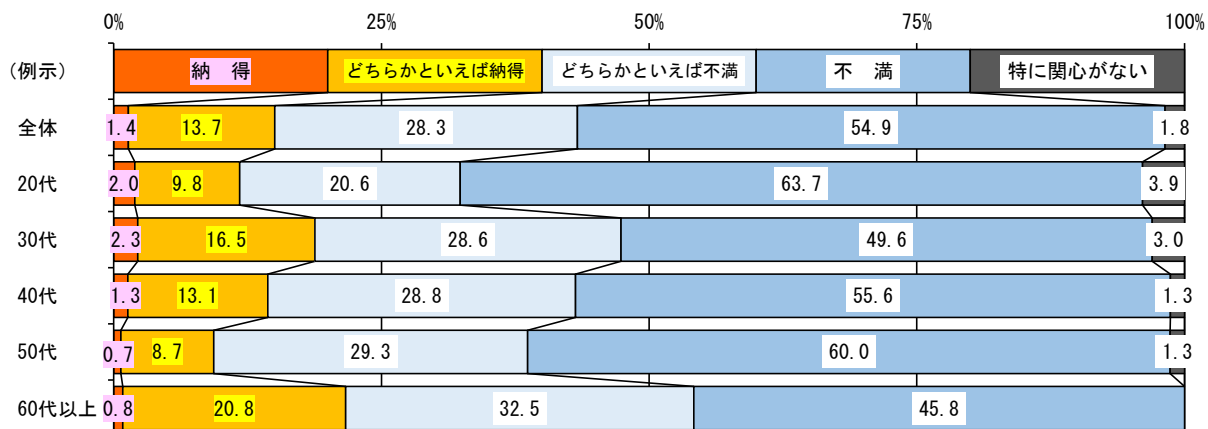


3. 平成27年10月（予定）の「消費税率再引き上げ」について

来年の平成27年10月（予定）の消費税率の10%への更なる引き上げについて、政府は年内に可否判断を下す見込みであるが、その消費税率の再引き上げについて尋ねたところ、「納得(1.4%)」、「どちらかといえば納得(13.7%)」と回答した人の割合は合計で15.1%であった。

一方、「不満(54.9%)」、「どちらかといえば不満(28.3%)」と回答した人の合計は83.2%であった。

Q. 来年の平成27年10月（予定）の消費税率の10%への更なる引き上げについてどう思いますか。

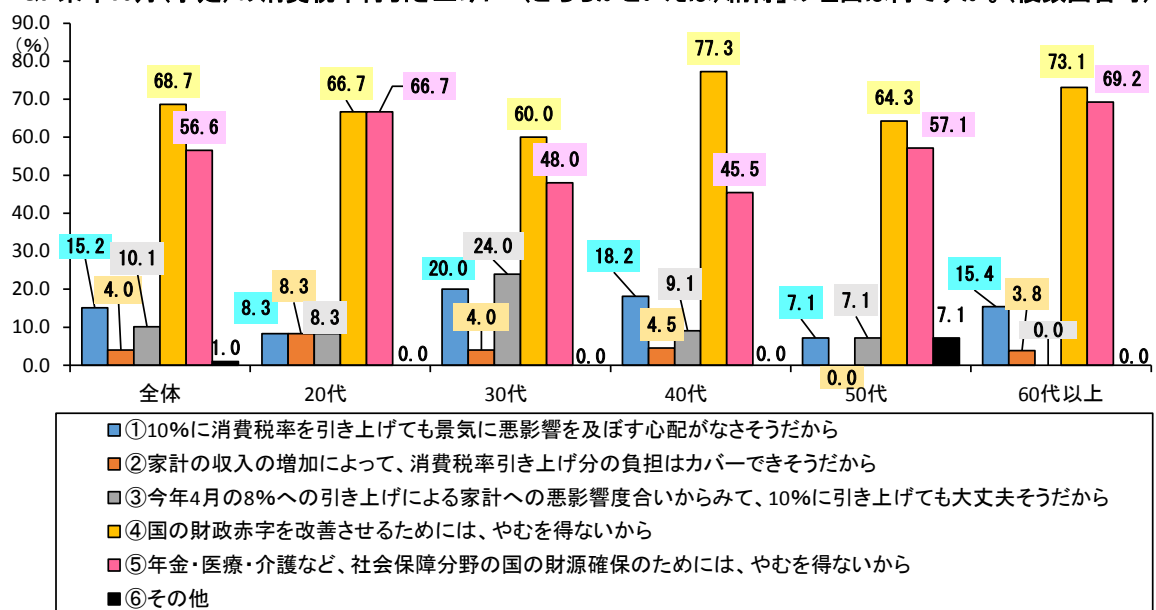


(注) 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない。

4. 「消費税率再引き上げ」の納得の理由

来年10月（予定）の消費税率の再引き上げに「(どちらかといえば) 納得」の理由を尋ねたところ、「国の財政赤字を改善させるためには、やむを得ないから」が最も回答割合が高く68.7%、次いで、「年金・医療・介護など、社会保障分野の国の財源確保のためには、やむを得ないから」が56.6%、「10%に消費税率を引き上げても景気に悪影響を及ぼす心配がなさそうだから」が15.2%であった。

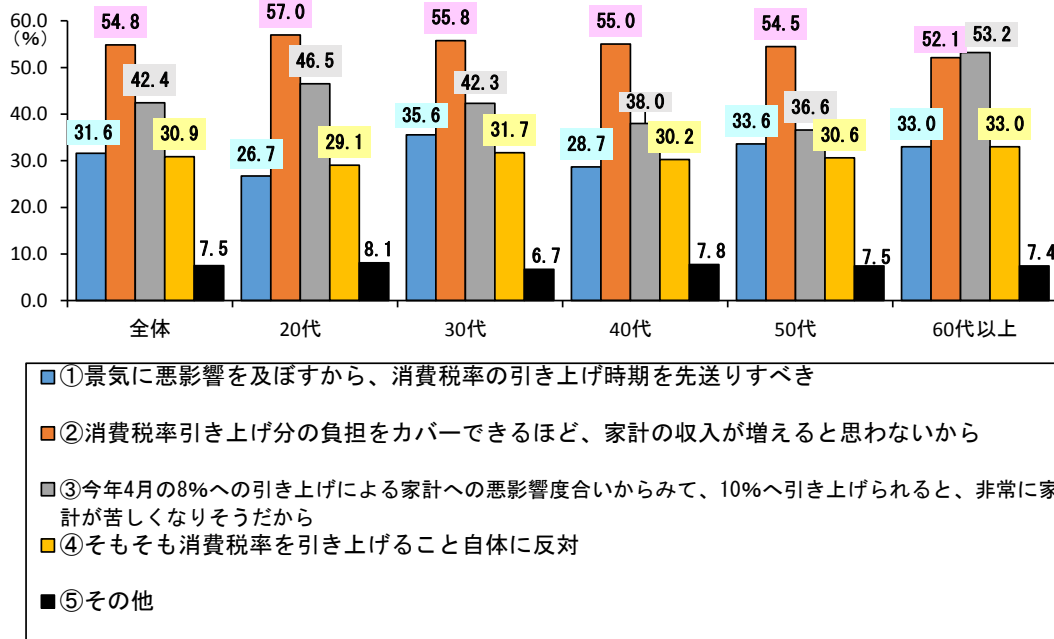
Q. 来年10月（予定）の消費税率再引き上げに「(どちらかといえば) 納得」の理由は何ですか。(複数回答可)



5. 「消費税率再引き上げ」の不満の理由

来年10月（予定）の消費税率の再引き上げに「（どちらかといえば）不満」の理由を尋ねたところ、「消費税率引き上げ分の負担をカバーできるほど、家計の収入が増えると思わないから」が最も回答割合が高く54.8%、次いで、「今年4月の8%への引き上げによる家計への悪影響度合いからみて、10%へ引き上げられると、非常に家計が苦しくなりそうだから」が42.4%、「景気に悪影響を及ぼすから、消費税率の引き上げ時期を先送りすべき」が31.6%、「そもそも消費税率を引き上げること自体に反対」が30.9%であった。

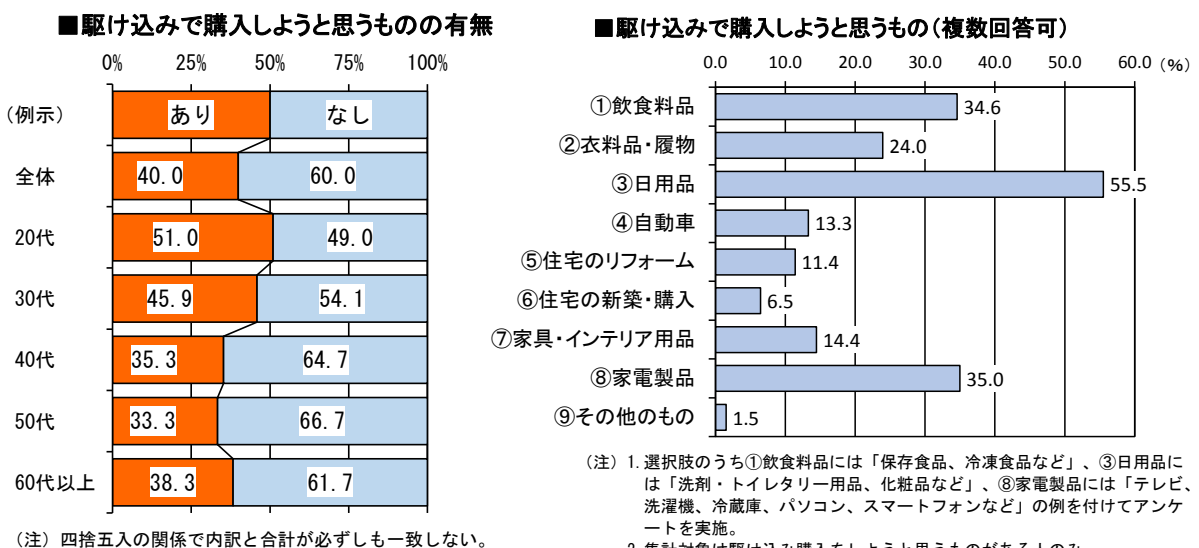
Q. 来年10月（予定）の消費税率再引き上げに「（どちらかといえば）不満」の理由は何ですか。（複数回答可）



6. 消費税率再引き上げ前の駆け込み消費について

来年10月（予定）の消費税率の8%から10%への再引き上げ前に、増税を見越して購入しようと思うものがあるか尋ねたところ、ある人の割合が全体の40.0%で、購入しようと思うもので最も回答割合が高かったのは「日用品」で55.5%、次いで「家電製品」の35.0%であった。

Q. 来年10月（予定）の消費税率引き上げ前に何か駆け込みで購入しようと思うものはありますか。

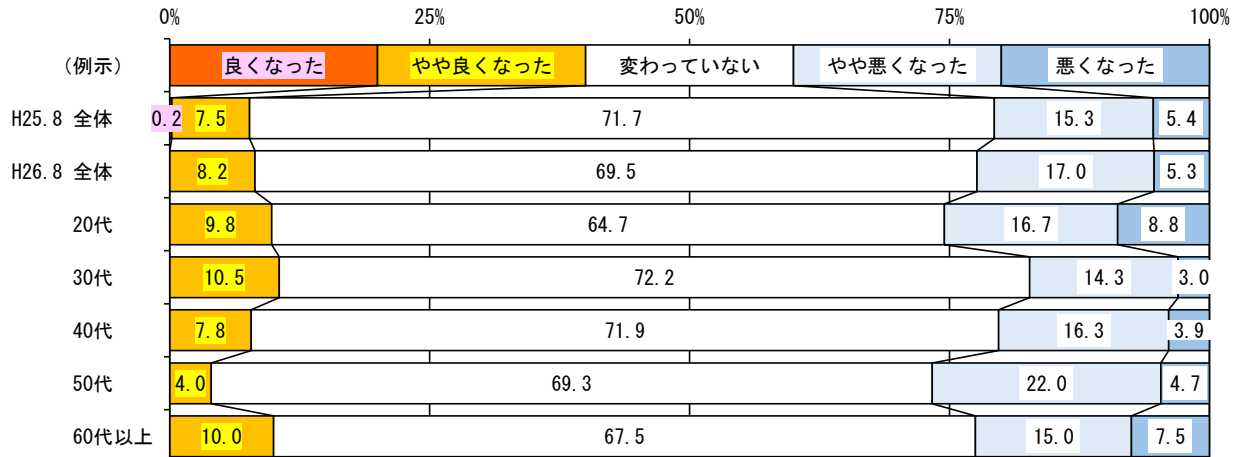


C. 香川県内の景気について

1. 県内の景気（1年前と比べて） ～ 8.2%の人が「(やや)良くなった」と回答～

香川県内の景気について尋ねたところ、1年前と比べて「良くなった（0.0%）」、「やや良くなった（8.2%）」と回答した人の割合は合計で8.2%であった。一方、「悪くなった（5.3%）」、「やや悪くなった（17.0%）」と回答した人の割合は合計で22.3%であった。年代別にみると、「(やや)良くなった」と回答した人の割合が最も高かったのは30歳代で10.5%、一方、「(やや)悪くなった」と回答した人の割合が最も高かったのは50歳代で26.7%であった。

Q. 1年前と比べて、現在の香川県の景気は、良くなったと思いますか。悪くなったと思いますか。

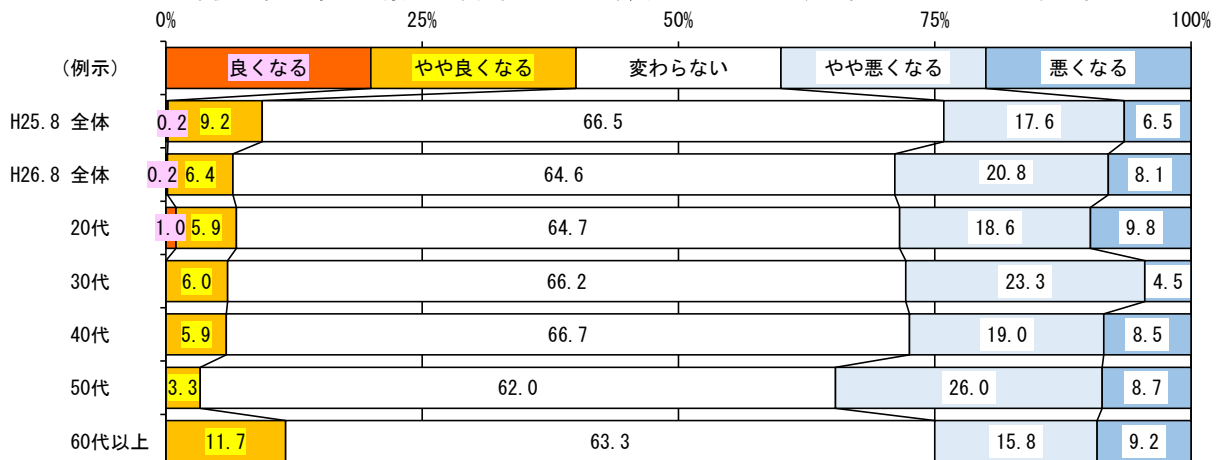


(注) 1. 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない。 2. H25.8は昨年実施した調査の結果である。

2. 1年後の県内の景気 ～ 6.6%の人が「(やや)良くなる」と予想～

香川県内の1年後の景気について尋ねたところ、現在と比べて「良くなる（0.2%）」、「やや良くなる（6.4%）」と予想した人の割合は合計で6.6%であった。一方、「悪くなる（8.1%）」、「やや悪くなる（20.8%）」と予想した人の割合は合計で28.9%であった。年代別にみると、「(やや)良くなる」と予想した人の割合が最も高かったのは60歳代以上で11.7%、一方、「(やや)悪くなる」と予想した人の割合が最も高かったのは50歳代で34.7%であった。

Q. 1年後の香川県内の景気は、現在と比べて、良くなると思いますか。悪くなると思いますか。



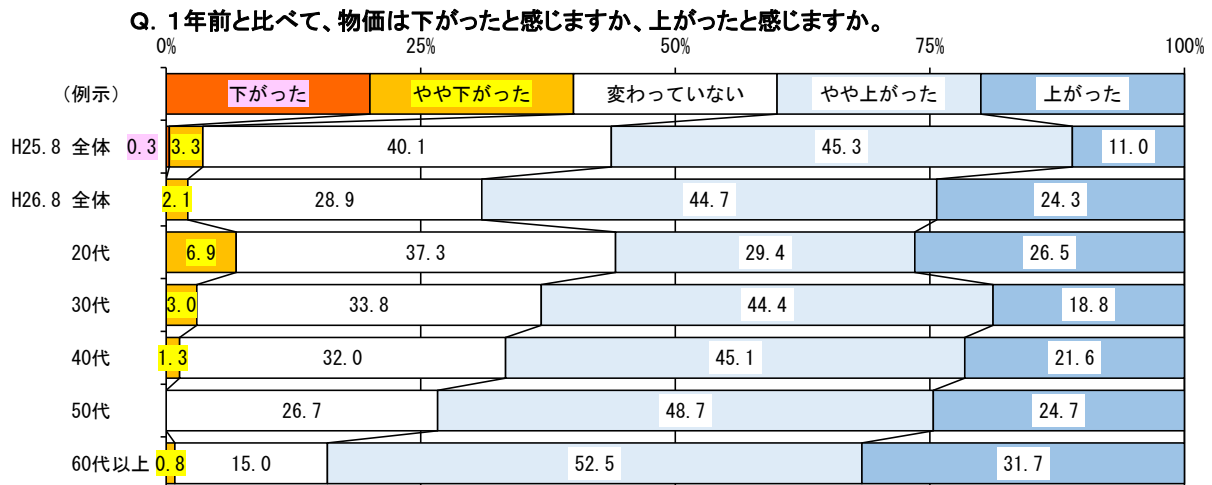
(注) 1. 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない。 2. H25.8は昨年実施した調査の結果である。

D. 物価について

1. 物価（1年前に比べて） ～ 69.0%の人が「(やや)上がった」と回答 ～

消費者物価について尋ねたところ、1年前と比べて「下がった(0.0%)」、「やや下がった(2.1%)」と感じている人の割合は合計で2.1%であった。

一方、「上がった(24.3%)」、「やや上がった(44.7%)」と感じている人の割合は合計69.0%で、年代別にみると、「(やや)上がった」と感じている人の割合が最も高かったのは60歳代以上で84.2%であった。

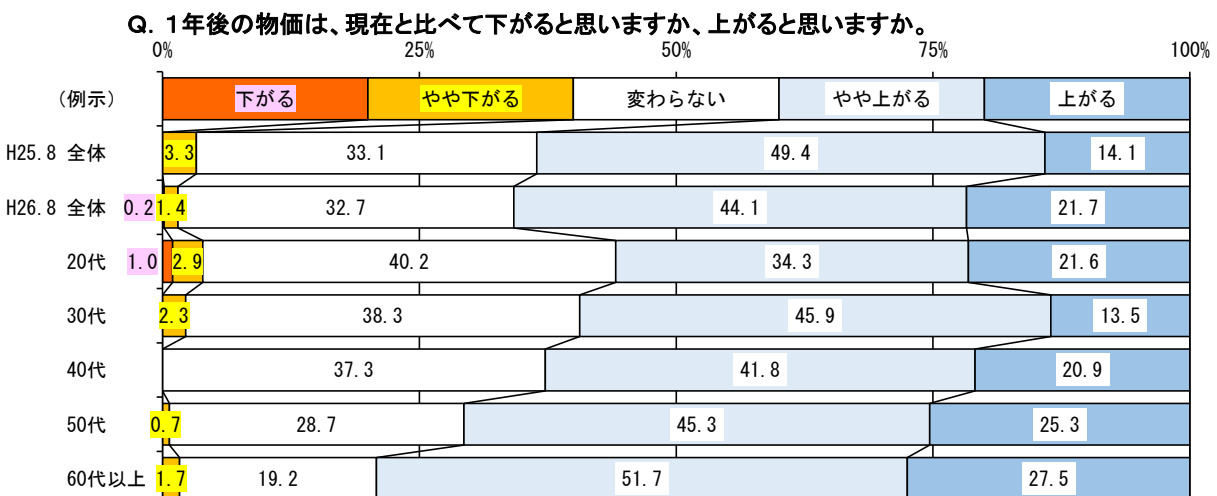


(注) 1. 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない。 2. H25.8は昨年実施した調査の結果である。

2. 1年後の物価 ～ 65.8%の人が「(やや)上がる」と予想 ～

1年後の消費者物価について尋ねたところ、現在と比べて「下がる(0.2%)」、「やや下がる(1.4%)」と予想した人の割合は合計で1.6%であった。

一方、「上がる(21.7%)」、「やや上がる(44.1%)」と予想した人の割合は合計65.8%で、年代別にみると、「(やや)上がる」と予想している人の割合が最も高かったのは60歳代以上で79.2%であった。

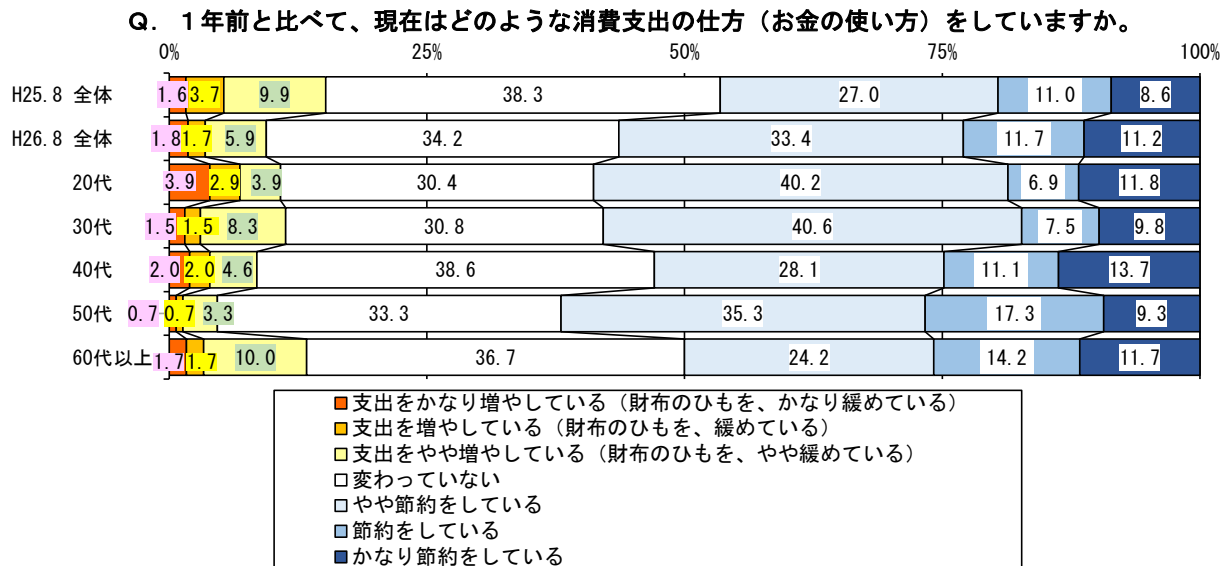


(注) 1. 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない。 2. H25.8は昨年実施した調査の結果である。

E. 消費行動について

1. 現在の消費行動（1年前に比べて） ～ 56.3%の人が節約をしていると回答 ～

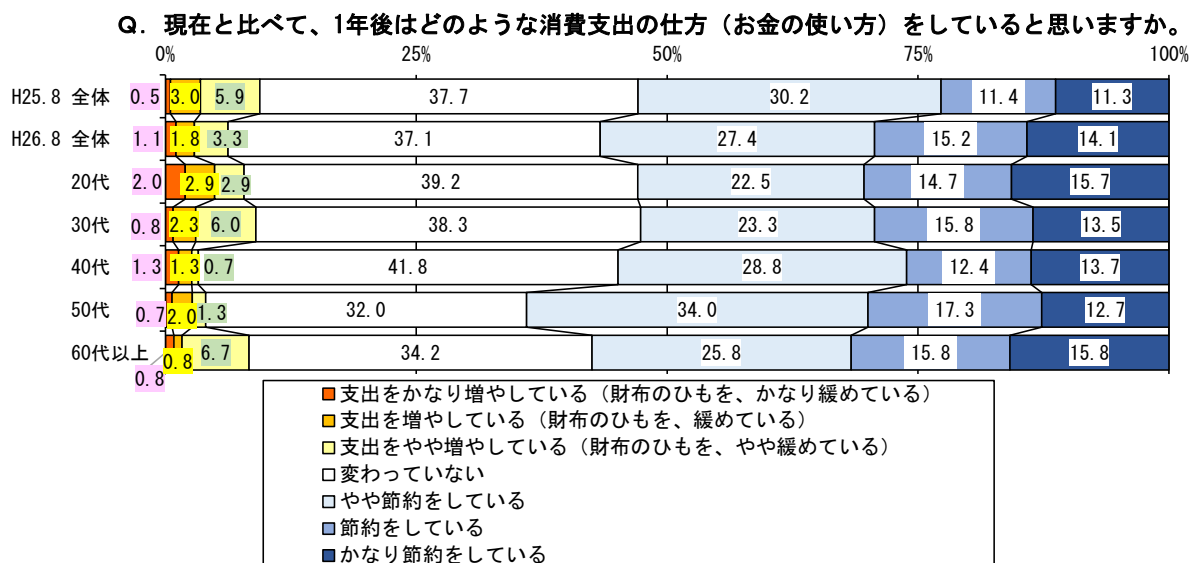
現在の消費支出の仕方（お金の使い方）について尋ねたところ、1年前と比べて消費支出を増やしている人、いわゆる「財布のひも」を、「かなり緩めている（1.8%）」、「緩めている（1.7%）」、「やや緩めている（5.9%）」と回答した人の割合は合計で9.4%であった。一方、「かなり節約をしている（11.2%）」、「節約をしている（11.7%）」、「やや節約をしている（33.4%）」の回答割合は合計で56.3%であった。



(注) 1. 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない。 2. H25.8は昨年実施した調査の結果である。

2. 1年後の消費行動 ～ 56.7%の人が節約をしていると予想 ～

1年後の消費支出の仕方（お金の使い方）について尋ねたところ、現在と比べて「財布のひも」を、「かなり緩めている（1.1%）」、「緩めている（1.8%）」、「やや緩めている（3.3%）」と予想した人の割合は合計で6.2%であった。一方、「かなり節約をしている（14.1%）」、「節約をしている（15.2%）」、「やや節約をしている（27.4%）」の回答割合は合計で56.7%であった。



(注) 1. 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない。 2. H25.8は昨年実施した調査の結果である。